

和歌山県立串本古座高等学校

広報くしこざ

編集：発行：串本古座高等学校地域協議会

INDEX

- ・ 8月～12月のトピックス…………… 1～3
- ・ 2019年度進路状況…………… 4
- ・ 地域協議会…………… 4・5



新入生を全国から募集しています

留学は外国
だけじゃない!!

学校周辺で一人暮らし
※費用についてはご相談ください

KUSHIMOTO
KOSAGAWA

和歌山県立串本古座高等学校



串本古座高校は全国から生徒を募集しています

詳しくは串本古座高校魅力化
プロジェクト特設サイトへ

串本古座高校の二学期の動き

8月

マリンチャレンジプログラム 2019 関西大会！

8月9日（金）、鳥羽水族館でマリンチャレンジプログラム 2019 関西大会が開かれ、1次審査を突破した9校がそれぞれ研究の成果を発表しました。本校のCGS ジオパーク班は「なぜ潮岬の東西でオカヤドカリ類の分布に違いがあるのか？」というテーマで発表しました。大阪大学や三重大学の先生が審査員で、各校とも口頭発表のあと質疑を受けました。残念ながら全国大会進出とはいきませんでした。研究の意義を明確にすることができました。このことを励みにさらに研究を続けたいと思います。



CGS 部が古座川の環境をアピール!!

8月10日（土）、古座川町観光協会主催のイベント「古座川 川の家」に協力し、環境保全のアピール活動を行いました。古座川町月野瀬にある少女峰前の河原でゴミ拾いをしながら、水遊びをしている人々に町指定のゴミ袋を配って清掃の協力を呼びかけ、ゴミを届けてくれた人には飲み物を振る舞いました。



時間限定で行った流しそうめんでは子どもたちの笑顔があふれ、やりがいを感じました。古座

川の素晴らしさをもっと知ってもらい、そして大切にしていけるようこれからも様々な形で応援していこうと思います。



9月

「世界津波の日」高校生サミット in 北海道



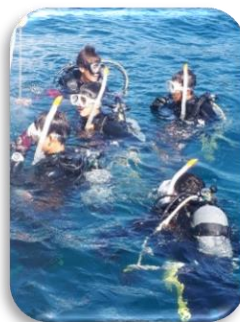
9月10日（火）・11日（水）「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道に本校から3名の生徒が参加し、防災意識の向上や、様々な国の生徒たちとの交流を積極的に行いました。

二日間の議論は「伝承・備え・社会貢献 記憶を未来へ、備えを明日へ」というイランクラブ宣言に取りまとめられました。

災害は防ぐことはできませんが、災害への意識を高め、常に備えておくことで、被害を少なくすることができます。サミットでの学びを学校に、地域に広めたいと参加した3名の生徒は思ったようです！



ボートダイビング実習



9月11日（水）、グローバルコースの2年生は授業でボートダイビングを実施しました。1学期にスキューバダイビングの資格を取得した生徒達は水中で様々な魚を観察し串本の海を満喫しました。また、水中写真の撮

影にも挑戦するなど有意義な体験ができました。



し、枕状溶岩や貫入岩の観察などを行いました。18日（金）にはジオパークセンターの見学に出かけ、担当者から展示物等の解説を受け、地域の地質的・地形的特徴について学習しました。



10月 第72回 体育祭！

10月15日（火）、令和元年度第72回体育祭が開かれました。11日（金）開催の予定でしたが、台風の影響で延期されました。



この日はすばらしい晴天で、生徒のはつらつとした顔が印象的でした。各競技では熱戦が繰り広げられました。

最終種目のブロック対抗リレーでは3年生の担任・副担任も各ブロックの優勝をめざして力走しました。応援合戦も毎年盛り上がります。4つのブロックがそれぞれ趣向を凝らしたダンスで、大いに場を盛り上げてくれました。応援合戦、競技種目とも優勝は黄色ブロック(3D・1D)でしたが、勝敗に関係なくどの競技にも、生徒は懸命に取り組んでいました。



体育祭を見に来てくださった保護者やOB・OG、地域の方々、ご声援ありがとうございました。

授業紹介 3年生「南紀自然文化探究」

10月16日（水）、3年生の「南紀自然文化探究」が南紀ジオパークセンター担当者とジオパークガイドの案内で、潮岬の海岸を訪れました。サンゴと軽石探

11月 2019年 文化祭 ～新しい時代に刻む1ページ～



11月1日（金）・2日（土）、「新しい時代に刻む1ページ」をテーマに文化祭を開催しました。開会式で生徒会

長の上野さんが「待ちに待った文化祭。新しい時代に刻む1ページにふさわしく串本古座高校らしい文化祭をみんなで作り上げ、思い出に残る最高の2日間にしましょう。」と呼びかけました。オープニングは吹奏楽部。サプライズで先生方が演奏に合わせて踊り出したときは、とても盛り上がりました。書道部によるパフォーマンスや2年生クラスによる発表、有志ステージが続きました。2日目は、各クラスが工夫したバザーやアトラクション、芸術選択生の作品展示でした。昨年から出展している「JR」のブースは親子連れでにぎわっていました。ご来場いただいた保護者や地域のみなさま、本当にありがとうございました。



出張！ 和歌山大学 くろしお塾



11月15日(金)、地域協議会が「出張！ 和らくろしお塾」と称して大学生との交流会を開催してくれました。この日は和

歌山大学の村田教授のほか教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部の学生7名が来校してくれました。生徒は関心のある学部の大学生から直接話を聞き、大学での学び方やゼミの仕組みなど熱心に質問し、大学生活のイメージを膨らませていました。最後に大学生から「学習のモチベーションを上手く保つ」、「1日1日を大切にす



12月

マレーシアから留学生が来校



12月11日(水)、本校にマレーシア・クランタン州から、留学生のリアンさんが来校しました。彼女はライ

オンズクラブの青少年交換活動(YCE)の一環で12月5日～12月26日の日本滞在でした。

この日は2年C組の生徒達と1日を一緒に過ごしました。まず、1時間目は歓迎会として、お互いに英語での自己紹介をし、マレーシアや日本・串本の様子について話し合いました。2時間目は2年生B組・C組合同で体育館でバドミント

ンをして汗を流しました。3・4時間目、調理実習では「めはりずし」と「けんちん汁」、「シミット」をつくり、昼食をとりながら会話を楽しんでいました。5時間目の数学の授業は少し難しかったようでしたが、6時間目の理科では海に出て貝探しのグループワークを楽しそうに行っていました。

1日だけの交流でしたが、生徒たちは積極的に英語で話しかけ、交流を楽しんでいました。本校の生徒たちにとっても貴重な機会となったようです。



授業紹介 3年生「南紀自然文化探究」



12月6日(金)、大島のジオサイトの見学。この日は曇り空でしたが地獄の釜、須江崎、海金剛、苗我島などジオサイトをガ

イドさんに解説していただき、雄大な自然を再確認できました。

12月13(金)、鉱物分離の実験。近辺で取れた砂をおたますくい、水を張ったバケツの中で回すことで比重の重い鉱物が沈み、軽いものは水に浮かんで取り除かれていきます。最終的におたま内に沈んだものの中から実体顕微鏡でガーネット(宝石)を探しました。

12月20日(金)、砂粒の生物探し。近辺の海岸で取れた砂の中から貝のかけらやウニのとげ、サンゴのかけら、有孔虫などの目に見えない小さな生物を実体顕微鏡で探しました。

◇2019年度 進路状況

2019年度の進路概況（令和元年12月末現在）をお知らせします。

本年度就職希望者は35%、進学希望者は65%です。進路決定者は82%です。

進学状況は、推薦試験で和歌山大学教育学部、和歌山大学経済学部、和歌山県立医科大学保健看護学部、明治大学文学部、関西大学人間科学部などに合格しています。うち四大・短大進学者は26%、専門学校は18%です。

就職状況について、就職希望生は100%内定しました。本年度の求人の傾向は、製造業の求人が特に増えています。1社あたりの求人数も1人から2～6人と増えている企業も多くなってきています。また、新規の企業からの募集も増えています。

また、これからの受験に向けて頑張っている生徒が十数名います。最後まで進路実現を目指し頑張っています。

串本古座高等学校 地域協議会



大学ってどんなところ？

「出張！和大きくろしお塾」開講

11月15日（金）、大学生から直に「大学とはこんなところ」「こんな授業をし

てるんだよ」「こんな部活やサークル活動があるんだよ」「こんな楽しいことがあるんだよ」といった話が聞ける、「出張！和大きくろしお塾」を開講しました。



紀伊半島の端っこの高校ではどうしても大学や大学生に接する機会が少ないという地域の弱点を高校から聞いて、地域協議会が企画したものです。

この企画に和歌山大学が応じてくれました。学部を超えたサークルの「わかまなび」に所属する教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部の全学部の学生7名とそこを統括する村田和子教授が来校。16時から17時30分まで、教えるほうも教えられるほうも、みんな熱い1時間30分を過ごしました。

参加したのは、これから進路を決めなければならない、1年生2年生を中心とした生徒たちでした。

終了後、講師役を務めた大学生より、「これに参加して、進路を決めました！」と言ってくれた生徒もいたとのことで、感激したという話も聞きました。

地域的な弱点を緩和したり生徒の後押しをするのも、地域協議会の役割りのひとつだと思っています。



「南紀食文化探究」で大学教授の講義！

「学校設定科目」(注：この地域に根ざした事柄を教材に取り入れた教科)のうち「南紀食文化探究(2単位)」では、「食」や「栄養」に関係した地元在住の講師の講義の他、「栄養分野」専門の大学教授もお招きして、内容の濃い授業を行いました。



地元講師として、串本町役場職員のドウルナ・オズカヤ氏、串本町食生活改善推進協議会会長の堀順子氏と古座川町食生活改善推進協議会会長の羽山敬子氏、古座川ゆず

平井の里の倉岡有美氏を招聘。武庫川女子大学からは食物栄養学科の川村雅夫教授に講義をしていただき「大学になじみの少ない地域」の生徒たちのために、地域協議会が費用を負担して教授を招き支援しました。普段は接することのない大学教授が行う授業に、生徒たちは最初は緊張したり戸惑ったりしていましたが、実験では打ち解けた様子で授業を受けていました。

生徒たちにとって、こうしたこともこれからの「糧」になると思います。



隠岐島前高校が標榜する「グローバル」の意味は

全国募集及び魅力ある高校づくりの聖典ともいえる、「未来を変えた島の学校(岩波書店)」には次のようなくだりがある。

「・・・・地域学やヒトツナギを通じて、人のつながりや感謝の心など、現代社会で薄れつつある価値がローカルの中にこそあると気がついた。こうした地域が抱いている「いなかセンス」とグローバル社会で生き抜くための「都会センス」を両有し、その文化的バイリンガルになっていくこと。そしてローカルとグローバルをつなぎ、良い部分をかけあわせられる人間が育つことは、この地域だけでなく、日本全体にとっても価値があることだと確信した。」

今、串本古座高校は、こうした人材育成を目指しており串本古座高等学校地域協議会は、このための様々な取り組みを応援しています。

